

乳児を除く小児アトピー性皮膚炎の疫学 (頻度と要因)

| | |
|------|---|
| 出典 | 皮膚の科学(1347-1813)3巻 Suppl. 4 Page5-12(2004. 12) (http://search.jamas.or.jp/link/ui/2006000838) |
| 著者 | 占部 和敬 |
| 調査地域 | 北海道、岩手県、東京都、大阪府、岐阜県、高知県、広島県、福岡県 |
| 調査時期 | 2000～2002年 |
| 調査対象 | 小学1年生、小学6年生 |
| 依頼数 | 2800人 |
| 診断方法 | 医師による診断 |
| 有症率 | 7～15% |
| 調査概要 | 小学1、6年生を対象に全国8か所（北海道、岩手、東京、大阪、岐阜、高知、広島、福岡）でアトピー性皮膚炎の有病率を調査した論文。有病率は7%から15%で全体としては11%だった。福岡、大阪で高く、岩手、高知で低かった。 |